



田んぼの虫

おす 雄が子育てをする虫（その1）

タガメ(田亀)って知っていますか。

田んぼにすむカメムシという意味の名前だと思いますが、一説には田んぼの中を亀のようにはい廻るからだという人もいます。

私が子どもの頃には、まだたくさんいたのでしょう。夜になると、田んぼの近くの外灯の光に飛んできて、下に落ちてひっくり返ってもがいているものや、ごそごそはっているもの、踏みつぶされているものによく出会いました。それが農薬の使用でどんどん減ってきて、今では環境省の絶滅危惧種に指定されている日本最大の水生昆虫です。

タガメやコオイムシ（26ページ）の食事は私たちとちがって、鎌のような前足で捕らえたカエルや小魚の体内に、針のようなかたちの口をつきさし、そこから消化液を出して餌の肉をとかして、こんどは逆に吸い上げて飲み込んでしまいます。

また、雌が水面に突き出た杭や草の茎に産卵すると、雄がその卵のかたまりを守り、水をかけたり敵を追っぱらったりします。



卵は10日くらいで幼虫になり、みんなでそろって水の中へととび込みます。1匹ずつだと、下に待ちかまえている小魚やタイコウチ（34ページ）などに食べられるので、一度にとび込んで少しでも生き残りを増やそうということです。しかも幼虫は、みんなでかたまって力を合わせて、大きなオタマジャクシを襲ったりします。生きものの知恵ってすばらしいですね。